

信州の伝統的工芸品

木曽漆器

経済産業大臣指定伝統的工芸品 昭和50年2月17日指定



木曽漆器の概要

塩尻市(旧檜川村)は、木曽谷を貫く中山道(国道19号)の北の入口に位置し、夏涼しく冬厳寒な気候は、漆を塗る作業環境に良く、豊かな森林は良材を育み、17世紀初頭から400有余年にわたり木曽漆器の伝統技法が受け継がれてきました。

木曽漆器が全国に名を馳せたのは、明治初期に地元から発見された、鉄分を多く含む「まび つち錆土」により、堅牢な漆器を作ることができ

たからです。

木肌の美しさを生かす「き そ しゅん けい木曽春慶」、幾層の漆により斑模様を表す「き そ つい しゅ いろ うるし木曽堆朱」、彩漆で幾何学模様を描く「ぬり わけ ろ いろ ぬり塗分呂色塗」の三技法をはじめ、沈金・蒔絵など様々な技法・加飾があり、ヒノキ、カツラ、トチなどの良材を木地として、丈夫で使い勝手のよい製品が造られています。若い職人を中心に、現在の生活に適合した新しい木曽漆器が生産されています。

【主要産地】

塩尻市、木曽町、
松本市



主な製品

◎座卓



◎漆盆



◎蒔絵盛器



◎座卓



◎漆絵



◎漆木箱



伝統を受け継ぎ、現代に根ざす

木曾漆器の伝統的な技法は、たっぷりと漆を含ませたタンポを使って「型置」し、何層にも彩漆を塗り重ねた「木曾堆朱」、独特の中塗りを施した後、精製彩漆を用いて塗分した「塗分呂色」、木地の木目を生かした「木曾春慶」があります。

また、沈金や蒔絵などの技法を用いた漆製品もあります。

ガラスや金属など異素材への漆の活用や、現代生活に根ざした、漆製品の開発も行い、木曾漆器の素晴らしさを皆様にお伝えできるよう取り組んでいます。



◆ 錆土



◆ 下地塗り



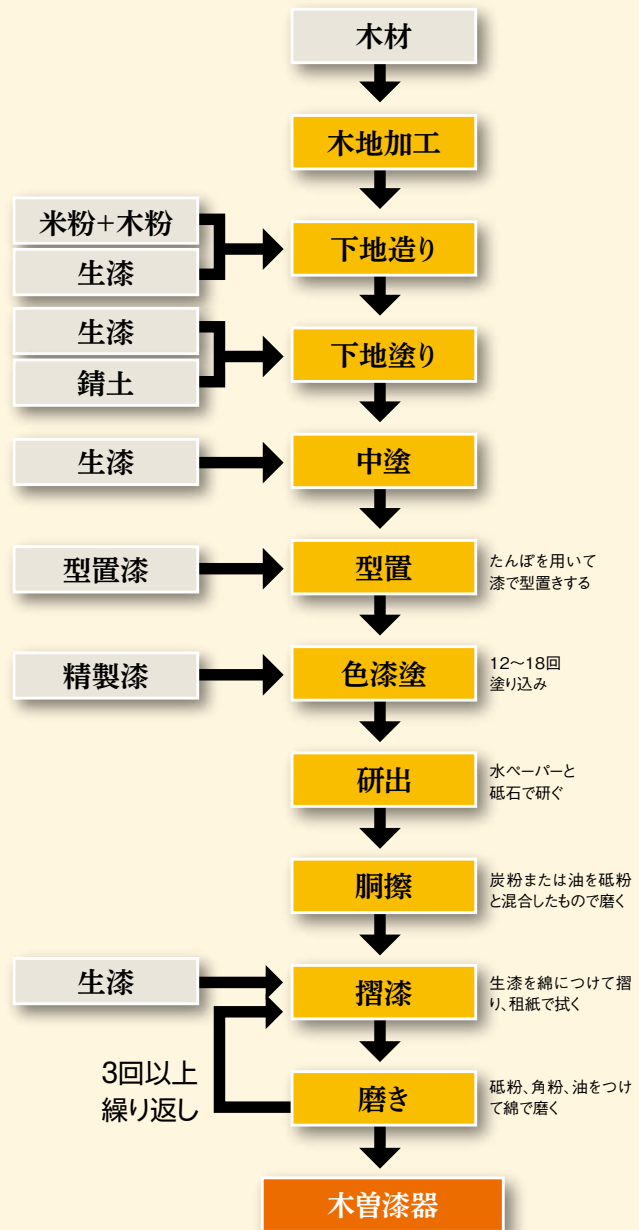
◆ 漆漉し (吉野紙等で漉して、漆の不純物を取り除く)



◆ 型置



【木曾堆朱製造工程】



大切な漆を、丁寧に、心を込めて

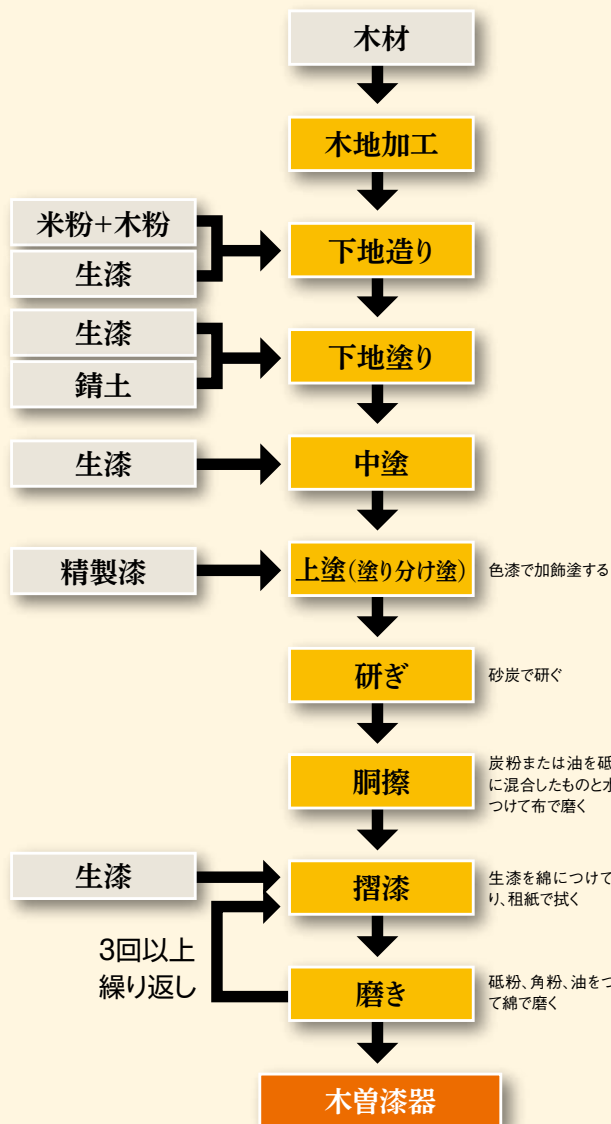
漆は、とても大切なものです。1滴たりとも無駄にはいけないと、昔から教え込まれています。

木曾漆器は、木曾ヒノキをはじめとした木曾五木を木地としていることから、他の産地では真似のできない漆器製品を生み出すことができます。

伝統を踏まえつつ、生活の中で使い込んでもらえる漆器を造り続けていきたいと思っています。



【塗分呂色塗製造工程】



◆塗り



◆ふし上げ (漆を塗った面に、浮きあがってきた埃や不純物を取り除く作業)



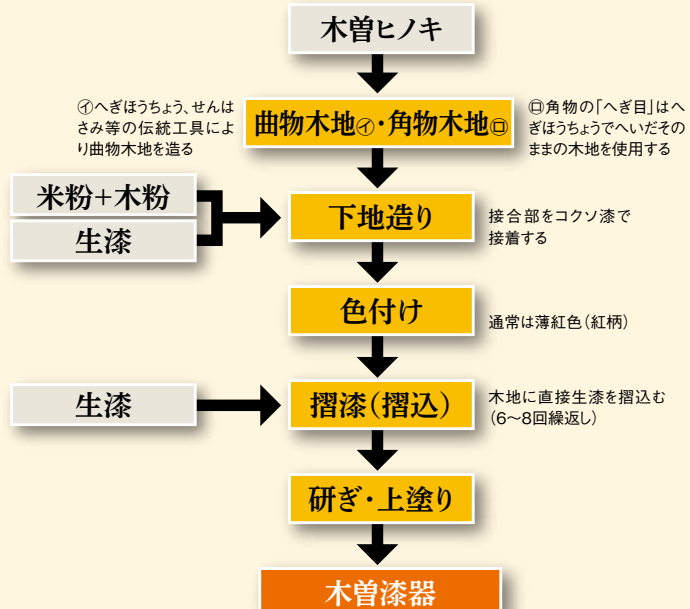
◆磨き



◆研ぎ



【木曽春慶製造工程】



伝統的技法を生かした製品

◎厨子(ZUSHI)



◎漆マグネットボード



◎漆テーブルセット



◎木曾春慶のお椀、箸



◎はまぐり型弁当箱



◎弁当箱



◎うるし食器セット



◎2012年長野県技能五輪・アビリンピック表彰メダル



木曽の漆器が歴史に現れるのは、富田町(現在の木曽町福島八沢)にあった竜源寺という寺院の経堂の漆塗り裏面に、「応永元年(1395年)富田町漆師加藤喜左衛門献納」と文字があったと伝えられているのが最初となります。

承応の頃(1652年～1655年)にかけては、木曽平沢(当時は奈良井村平沢)には、十数戸の漆塗業者があったといわれています。木曽谷は、渓谷地帯のため農耕地が少ない反面、木曽ヒノキをはじめとする豊かな恵まれた森林資源を利用した白木細工に漆を塗り、中山道(木曽路)を行きかう旅人を相手にお土産品として作り始めたことがその始まりといわれています。

原材料は、当初自由に伐採さ

れていましたが、宝永5年(1708年)5月以降、五木伐採停止の令が出て事業に一頓挫を来しましたが、代官山村家の庇護により尾州藩に嘆訴して、漆器業者へ毎年「檜物手形」が下付され、相当量の檜材が漆器の木地用として無代伐採の恩恵に浴した記録があります。

約250年前の元禄の頃の平沢の漆器は、専ら実用を主とする板物類として世に聞こえ、木曽物(木曽平沢の特徴)と称されて寛政年間(1789年～1800年)に至っては、京都、大阪、江戸に木曽物取次受売店ができたといわれています。

職人たちは、更に良い品物を求めて当時噂の高かった輪島へと漆塗りの技法を習得するために出かけていきました。

明治の初め頃、奈良井駅の対岸、薪谷沢の山あいから流れ出る鉄分を含み堆積した泥、いわゆる「錆土」という秀れた粘土が発見されました。この「錆土」と漆を混ぜ合わせた下地塗り技法が考案されたことにより、堅牢な堅地漆器*産地となり、日本有数の地位を確立しました。

戦後、飾り棚、衝立、座卓等の漆器家具が多く製造されまし

た。特に、木曽堆朱などによる座卓が人気となり、多くの方が買い求めました。伝統的技法のみならず、沈金、蒔絵などの様々な技法や加飾にも力を入れてきました。金属・ガラスなどへの漆の活用研究も進め、長野冬季五輪・長野県技能五輪・アビリンピックのメダルなどの製作も手がけています。



※堅地漆器 漆器の木地に漆を塗った麻布を張り、さらに上漆をかけて仕上げた上質の漆器。

産地の取組

産地の取り組みを発信

「木曾くらしの工芸館」は、地域を代表する伝統的工芸品「木曽漆器」を軸に、期間毎にテーマを変えて商品展開と販売促進を図っています。



また、販路拡大、伝統技術の継承、人材育成のため、木曽漆器工業協同組合と連携し、文化財修復等事業を実施しています。

木曽漆器祭

毎年6月に、木曽平沢にて開催される大漆器祭。

街並みには180店舗もの店が立ち並び、職人の丹精込めた逸品をはじめ、この日しか出ない製品や蔵出しものが店先に並びます。近年は、若者向けの創作漆器なども商品化され、販売されています。



木曽漆器の中心である、「木曽平沢」は、平成18年「漆工町」として重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

アクセス



●塩尻ICから車で40分 ●伊那ICから車で30分

木曽漆器工業協同組合

〒399-6302 長野県塩尻市木曽平沢2272-7

TEL0264-34-2113 FAX0264-34-2820

e-mail:info@shikkikumiai.com

URL <http://kiso.shikkikumiai.com/>